

不動テトラの安全衛生重点施策



2021年4月

株式会社不動テトラ
安全品質環境本部

目 次

1. 新しい事業年度のスタートにあたって	・・・	1
2. 2021年度 安全衛生管理計画	・・・	2
3. 2021年度 危険有害要因の特定等の結果表	・・・	3
4. 『目の前の その行動 この設備 指差呼称で 互いに 安全確認』 運動	・・・	7
5. リスクアセスメントの実施に係る 店社管理者の指導強化	・・・	8
6. 作業内容に即した適切な人員配置と それぞれの役割の明確化	・・・	9
7. 体験型安全教育等による危険感受性の向上	・・・	11
8. 感染防止の取組・「三つの密」や「感染リスクが 高まる『5つの場面』」を避ける行動の徹底	・・・	12

新しい事業年度(2021年度：76期)のスタートにあたって

新年度を迎えるにあたって、一言ご挨拶を申し上げます。

2020年の建設業における労働災害発生状況は、最新の速報値で、死亡者数は過去最少となった一昨年よりわずかに減少し、死亡者数・死傷者数ともに2年連続で減少する傾向にあります。コロナ禍による多様で柔軟な対応が求められるなか、関係者の真摯な取り組みがうかがえます。そのような建設業全体の状況のなか、当社は昨年度休業4日以上労働災害が多く発生し、なかには休業見込みが数ヶ月におよぶ重篤な災害も発生しています。また、不慮災害も目標の2倍以上の災害が発生しています。そのほとんどは**危険軽視の安易な不安全行動**によるものです。労働災害防止のための様々な取り組みを実施していますが、**すべては無事故・無災害という究極の目的に一步でも近づくための取り組み**です。「なぜこのような安全活動をやっているのか?」、「どのようにやれば災害防止につながるのか?」**ひとつひとつの安全活動の意義・目的を再認識**して、それぞれの活動を真摯に取り組んでください。

昨年度の災害発生状況等をふまえ、今年度の安全衛生管理活動の基本となる『**2021年度安全衛生管理計画**』を策定しましたので伝達します。

最重点実施事項として、『**目の前の その行動 この設備 指差呼称で互いに安全確認**』運動を展開します。**一緒に働く仲間が不安全行動をしていないか、使用している機械・設備に不備はないか、お互いに指差呼称で安全確認**して、目の前にある危険な行動や状態を見逃すことなく、その場で改善しましょう。

また、作業手順・作業計画の策定・周知において、「**今まで通り**」・「**きのうと同じ**」といった**安易な確認・周知は禁物**です、その日、その場所での「**作業方法**」・「**現地状況**」を明確にし、**作業グループ全員が同じ認識のもと、一人ひとりが確実に役割を果たせるような周知**を行ってください。

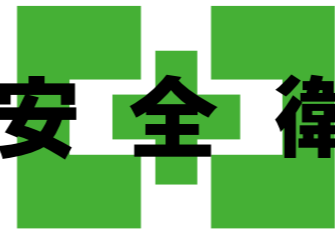
そのほか、「**作業内容に即した適切な人員配置と役割の明確化**」、「**より効果的なパトロール方法の検討と実施**」、「**体験型安全教育等による危険感受性の向上**」等を掲げ、取り組んでいくわけですが、究極の目的に近づくためには関係者一人ひとりの**決意と実行が不可欠**です。今年度こそ安全目標を達成するため、掲げた重点実施事項を決意をもって実行しましょう。

本計画を着実に実行して、「**無事故・無災害の職場づくり**」、「**快適で明るく働きがいのある職場環境づくり**」の実現に一步ずつ近づいていきましょう。

安全衛生管理計画ポスターを、各作業所および本支店・研究所・営業所・事務所に配付します。掲示するとともに、計画された内容を協力会社を含め関係者全員に周知徹底するようお願いいたします。

株式会社 不動テトラ
執行役員 安全品質環境本部長
平野 博明

2021年度 安全衛生管理計画



安全衛生方針

当社は、人命尊重の理念のもとに「安全最優先」で事業活動を行い、協力会社と連携して、労働災害および公衆災害の絶滅、工事事故の防止、働く人たちの健康増進ならびに職場環境の改善に努め、社会からの信頼を得るとともに会社の持続的発展を目指します。

安全衛生行動指針

1. 全従業員の一人ひとりが意識を高め、安全衛生活動を自ら推進し、無事故・無災害の職場づくりを進めます。
2. 職場でのリスクアセスメントを実行し、労働安全衛生マネジメントシステムの適切な運用により、安全衛生管理の継続的改善に努めます。
3. 心とからだの健康づくりに取り組み、快適で明るく働きがいのある職場環境をつくりまします。
4. 労働安全衛生関係法令を確実に遵守します。

重点施策

重点施策	店社の重点実施事項	作業所の重点実施事項
リスクアセスメントの確実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ● 危険有害要因の特定時に活用する情報源の作業所への確実な展開 ● リスクアセスメントの実施に係る店社管理者の指導強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 該当工事の特性を考慮したリスクアセスメントの実施および関係者への周知・徹底 ● リスクアセスメント結果の作業所安全衛生管理目標・計画および作業手順書への反映
安全衛生活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ● 『目の前の その行動 この設備 指差呼称で互いに安全確認』運動の推進 ● 実作業を考慮した作業手順・作業計画の策定への指導・支援とその確認 ● 現場条件を考慮した適切な人員配置の検討 ● 安全衛生委員会の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 『目の前の その行動 この設備 指差呼称で互いに安全確認』運動の実施 ● 実作業に即した作業手順・作業計画の策定・周知と作業開始後の見直し ● 作業内容に即した適切な人員配置とそれぞれの役割の明確化 ● 統括管理体制の確立と災害防止協議会の活性化
三大災害の絶滅 (はさまれ・巻き込まれ災害、飛来・落下災害、墜落・転落災害)	<ul style="list-style-type: none"> ● より効果的なパトロール方法の検討と実施 ● 発生した災害(事故)の徹底した原因究明と、具体的な再発防止策の展開 ● 安全衛生パトロール是正指示事項・良好事項、監督署臨検指導事項の水平展開 ● 体験型安全教育等による危険感受性向上施策の立案と支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● 3ない管理(黙認しない・妥協しない・放置しない)に徹した現場巡視 ● 「災害事例」・「ヒヤリ・ハット あぶないカード」を活用した手順および機械・設備の見直し ● 「声かけ」・「見える化」の安全活動推進 ● 体験型安全教育等による危険感受性の向上
公衆災害・公衆事故・交通事故の防止	<ul style="list-style-type: none"> ● 公衆災害・公衆事故・交通事故事例の水平展開 ● 交通安全教育、長時間連続運転の禁止、疲労軽減への配慮、健康状態の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ● 架空線位置の確認と防護、地下埋設物位置の確認と試掘の確実な実施 ● 通勤を含めた、交通安全教育、運行ルートの明示およびヒヤリマップ作成と周知
「心とからだの健康づくり」 および職場環境改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期健康診断・特定業務(深夜業)健診の受診確認と有所見者への再診・再検指導 ● 高ストレス者の減少に向けた職場環境の改善 ● 働き方改革に係る社内施策の展開 ● 事業形態に即した新型コロナウイルス感染症拡大防止施策の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期健康診断・特定業務(深夜業)健診の確実な受診および有所見者の再診・再検 ● 高ストレス者の減少に向けた職場環境の改善 ● 働き方改革に係る社内施策に基づいた作業所運営 ● 感染防止の取組「三つの密」や「感染リスクが高まる『5つの場面』」を避ける行動の徹底

安全目標

1. 死亡災害：0件
2. 公衆災害：0件
3. 災害発生件数

休業4日以上	1件以内(統計内)
休業1日～3日	2件以内(同上)
休業0日	5件以内(同上)

衛生目標

1. 定期健康診断および特定業務従事者(深夜業)健康診断の受診率100%
2. 有所見者へのフォローの実施による二次検査受診率85%以上
3. 快適な職場環境の形成・促進

年月	2021年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月
月別 重点項目	墜落・転落災害の防止	建設機械・クレーン等災害の防止	崩壊・倒壊災害の防止	飛来・落下災害の防止	感電等電気災害の防止	切れ・こすれ災害の防止	墜落・転落災害の防止	架空線・地下埋設物事故の防止	建設機械・クレーン等災害の防止	交通事故・災害の防止	はさまれ・巻き込まれ災害の防止	激突され災害の防止
	交通事故・災害の防止	定期健康診断受診の徹底	熱中症の予防	はさまれ・巻き込まれ災害の防止	ストレスチェックの実施	潜水災害の防止	健康管理と職場環境の整備	激突され災害の防止	休止期間中の保安対策の確立	転倒災害の防止	船舶・作業船災害の防止	公衆災害の防止
主要行事 予定	安全衛生管理計画の周知期間	全社安全大会	安全衛生推進大会	全国安全週間 特別パトロール			全国労働衛生週間 特別パトロール		年末年始労働災害防止強調期間 特別パトロール	安全祈願		年度末労働災害防止強調月間



2021年度 危険有害要因の特定等の結果表



この表は、当社の過去の災害および事故事例をもとに要因を特定し、類似災害の防止を図るための結果表である。下線部分は、2020年度に発生した災害である。

Table with 6 columns: 大工種 (Major Work Type), 中工種 (Sub-work Type), 要素作業 (Elementary Work), 事故の型 (Accident Type), 危険有害要因の特定(予想される災害) (Identification of Hazardous Factors (Expected Disasters)), 危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策) (Identification of Measures to Eliminate/Reduce Hazardous Factors (Prevention Measures)). Rows include categories like シールド (Shield), トンネル工事 (Tunnel Work), 河川工事 (River Work), 準備工 (Preparation Work), 道路工事 (Road Work), 基礎工 (Foundation Work), 積込・運搬 (Loading/Transportation), 鉄道工事 (Railway Work).

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
鉄道工事	躯体工	鉄筋組立	はさまれ・巻き込まれ	●段取り筋をハンドカッターにて切断した際に、指を挟まれる。	●ハンドカッターを鉄筋にセットする際は、まず調整用鉄筋を下におき、手の位置を確認してから切断作業に入る。
				●段取り筋は、組み立て箇所にて切断する必要のないよう予め切断加工を行っておく。	●段取り筋は、組み立て箇所にて切断する必要のないよう予め切断加工を行っておく。
		●鉛直筋と開口補強筋との間に、手指を挟まれる。	●鉛直鉄筋に挟まれない位置をマーキングし、そのマーキングの内側を持つ作業手順にする。		
	単管パイプの切断	切れ・こすれ	●ベビースァンダーで単管パイプ切断時、刃先がはねて腕を切創する。	●ベビースァンダーは両手で取り扱う旨作業手順書に追記し、再度周知徹底する。	
P.C.桁ブロック接合	墜落・転落	●桁天端上でレバブロックにてブロック接合時、バランスを崩して転落する。	●足場上での切断作業では、落下防止養生を行う。		
路盤工	路盤コンクリート打設準備	墜落・転落	●路盤コンクリート上から降りる際、丸鋼を避けようとして着地の際に足首をくしく。	●安全帯使用責任者に声を掛け、監視のもと作業を行う。	
土工事	準備工	明示ロープ設置	切れ・こすれ	●明示ロープ設置時、カッターでロープを切断しようとした際、カッターが滑り指を切る。	●トラロープの切断は、万能はさみを使用する。
	切土・盛土	盛土転圧	墜落・転落 激突	●タイヤローラー、振動ローラーが法肩から転落し、運転手が下敷きになる。 ●ブルドーザー・バックホウに作業員がぶつかる。	●昇降階段を設置できない場合は、梯子を設置し、安全帯と垂直親綱(セフティープロック、ロリップ等)を必ず使用する。
		盛土	ハチ刺され	●盛土落石防止付近の泥上げ時、ハチに肩を刺される。	●作業範囲内の立入禁止措置を徹底する。
	排水管敷設	崩壊・倒壊	●切土法面の法尻部で排水管の敷設作業中、切土法面の表層が崩落して生き埋めになる。	●作業範囲内の路肩の状況等を調査する。	
上下水道	仮設工	試掘	水道管破損	●鋼矢板の残置確認でバックホウにて掘削の際、水道管を破損する。	●掘削前に埋設図面を必ず確認し、管路センター立会のもと試掘を行い、埋設物の確認をする。
	推進工	全ての坑内作業	墜落・転落	●梯子を昇降中に墜落する。	●昇降階段を設置する。
	土工	掘削	バックホウ転倒	●法肩が崩壊しバックホウが転倒する。	●昇降階段を設置できない場合は、梯子を設置し、安全帯と垂直親綱(セフティープロック、ロリップ等)を必ず使用する。
共同溝工	共同溝	転圧作業	はさまれ・巻き込まれ	●土留支保工の腹起し材ブラケットにローラーのハンドルが当りそうになり、手を出して挟まれる。	●狭い場所での作業では、必ず周囲の確認を行う。
	伐採工	チェーンソー	切れこすれ	●チェーンソーで伐採作業中、足をチェーンソーで切る。	●ハンドローラーの作業では、はさまれ災害が多いことを認識し、KY等を通じて危険感受性を高める。
除染工事	建物解体	防護ネット取付	激突	●足場の根からみパイプに足を掛けて上ろうとした際、滑って足の脛を強打する。	●防護ネットに危険表示の明示旗を取り付ける。
	積込・運搬	玉掛け	墜落・転落	●大型土のうに上がって玉掛け作業を行う際に、足を滑らせ転倒する。	●長い玉掛け用具(巾吊り)を使用して、大型土のうに上がらない。
	切土・盛土	場内移動	転倒	●コンバインドローラーを場内移動時、トラチヨキがレバーに引っかかり運転不能となって土壇堤に乗り上げ転倒する。	●重機運転者は短い安全チョッキを着用する。
	撤去工	コンクリートコア抜き	余剰排水管の破損	●底盤コンクリート部にコア抜きした際、余剰排水管の一部を破損し漏水する。	●変更作業時は職長又は上位者に必ず確認をとって作業をおこなう。
陸上地盤改良工(圧密・締固め)	組立砂杭系	下部振れ止め取付	飛来・落下	●リーダー最下部及び下部振れ止めの取り付け作業中、下部振れ止めが落下し、臀部に激突する。	●専用金具(落下防止金具)を使用する。
	施工砂杭系	骨材搬入・搬出	ゲート破損	●ダンパアップしたままゲートを通過しようとして、ゲートを破損する。	●作業員同士が声を掛けあい、機械の下に体を入れないよう注意する。
		施工【SAVE】	砕石飛散 作業油飛散	●ケーシングパイプ内に砕石がつまり、地表面上で管内の加圧をした際、砕石が飛散する。 ●ドレーンホースのカブラーが外れ、昇降装置付近から作業油が飛散する。	●指定時間以外の車両搬入を行わない。
	施工【SAVE-SP】	飛来・落下	●高圧洗浄機のノズルとホースを持ってかわす際、誤ってトリガーを握り、高圧水が顎に噴射する。	●ガードマン不在時は車両の出入を禁止する。	
解体砂杭系	エアホース取り外し	飛来・落下	●残圧抜きの際、エアホースが外れヘルメットと顔にぶつかる。	●高圧洗浄機のノズルの置き場をマシン本体傍とロッド架台に設置するとともにホースを常に整理・整頓し、輻射する場合には洗浄機のホースは常に最上に置くことをルール化、徹底する。	
	リーダー傾倒	クレーンブーム折損	●100t・75t用クレーンを使用してリーダー傾倒作業中、リーダーを吊っていた100t用クレーンのブームが折損する。	●高圧洗浄機とホースとの間に開閉コックのバルブを取付け水圧を調節できる構造とし、移動・段取り換え等の作業時には閉鎖する。	
陸上地盤改良工(固化)	組立固化系	オーガー取付	墜落・転落	●オーガー踏み場からライトステップに移る際、バランスを崩し飛び降りかかとを骨折する。	●器具の各部位を持ち込み時、及び作業開始前に点検を実施し、破損している場合は速やかに取り替える。
	施工固化系	吊ピース位置修正	動作の反動	●吊ピース取付六角ボルトを緩めた際、簡単にボルトが緩みバランスを崩し転倒する。	●「残圧ゼロを確認してから送気バルブを開く」を、作業手順に追加する。
		待機準備	はさまれ・巻き込まれ	●打ち込み用捨てヘッドに交換する際、手で転がした為、指をはさむ。	●カムロックに加え、番線等で抜け止め養生を行い、日々点検する。
	施工機移動	機構転倒	●施工機の移動中、または施工時に施工機が転倒する。	●合図者・手元シグナル(100t・SAVE-CP)が作業指揮者は無線を使用し合図を確認しながら作業を進め、緊急時に各機械をすぐに停止ができる状態にする。	
施工【C1-CMC】	セメントミルク飛散	●オーガーモーター内部配管とフランジの隙間をセメントミルクが伝って、上部より飛散する。	●作業所長(もしくは代理者)は組立・解体作業のリーダー(降ろし)工程に必ず立会う。		
(止水)掘削工事	施工締切・遮水	資材(リトール)の移動準備	飛来・落下	●クローラークレーン吊り具下に入り、玉掛けワイヤを吊り具から外そうとした際、吊り具が落下する。	●現場では、組立前に部材の規格等不備の無いことを確認する。
				●吊り荷の下には入らない。	●現場巡視時には、基本ルール(吊り荷下への立入り禁止等)の指示内容の遵守状況を確認する。

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
陸上地盤改良工(共通)	施工 先行削孔	先行削孔掘削作業	はさまれ・巻き込まれ	●先行削孔中、ケーシング内の単管を外す際、シングルレンチを直接手で持ち回転させた際に挟まれる。	●緩めるのか、締めるのか、はっきりしない合図には操作しない。 ●レンチを使用する作業で、挟まれる恐れのある部分に塗装を行い、注意喚起する。 ●オペレータは、必ず手元作業者の確認を行う。
	施工 調査工	調査工	はさまれ・巻き込まれ 飛来・落下	●ボーリングロッドの継ぎ足し時、下側ロッドに手を添えたまま上側ロッドを下ろし、ロッドに手をはさまれる。 ●ロープトングを使用しロッド引抜時、ロープの編み込みが抜けロープトング金物が前頭部に当たる。	●回転物には絶対手を触れないことを徹底する。 ●下側ロッドに手を添える動作は、必要ないことを周知する。 ●オペレーターは、ロッドを降下させる前に、継ぎ足し箇所を目視し安全確認を行う。 ●既製品のロープを使用する。(鋼綱用ロープφ16mm) ●ロープのほつれ、吊吊具の点検をこまめに行う。 ●ロッド引抜の際、必要な時以外マシンから離れる。
	組立共通	ストローク計取付	墜落・転落	●伸縮ストローク計のワイヤー取付中、施工機キャビン上の日よけ用合板に乗り、合板が破損し転落する。	●日よけ用の合板に乘らない。 ●高所作業時には安全帯を使用する。 ●ワイヤー取付位置を適正な位置に下げる。
		クレーン作業	はさまれ・巻き込まれ	●施工機をクレーンで組立時、フックの巻き上げ操作中にフックブロックに手を添えて、滑車とワイヤーに挟む。	●玉掛け作業後、作業場所より3m以上離れるルールとする。 ●巻き上げ合図後も人払いがなされているか確認し、フックが安全な高さになるまで目を離さない。
	解体共通	クレーン組立	飛来・落下	●ソケットに仕込んでいた主巻ワイヤーが抜けて顔に激突する。	●ワイヤーを扱う際は、保護シールドを使用する。 ●差込んだワイヤーが抜けない様に、ワイヤクリップとロープで仮止め固定し、ワイヤーの抜け防止手順を追加する。
		起伏ワイヤー巻き込み	飛来・落下	●シーブをクレーンで吊り、ドラムへ巻き込み中、クレーンブームが破損してシーブが落下する。	●作業指揮者は役割変更する場合は作業を止め、作業手順書を見直し、関係作業者全員に周知する。 ●作業前に合図者を明確に選任し、関係作業者に周知してから作業を行う。 ●無線機を使用して、合図を確認しながら作業を行う。
	その他 整備・点検	機材積込	墜落・転落	●トラック上で機材積込み時、物を両手に抱え、荷台の端を移動中に荷台から墜落する。	●トラック上で物を抱えて、荷台上を移動しない。 ●物を移動する場合には、昇降設備(ライトステップ等)を確認する。
		トップアリの修理	はさまれ・巻き込まれ	●トップベアリングを修理する際、ワイヤーをつかんだ手を挟まれる。	●非常時作業打合せの実施を徹底する。 ●コミュニケーション手段を再検討する。
		施工機点検中	飛来・落下	●点検時、下部振れ止めの下に入り、振れ止め吊りワイヤーが切断・落下して、下敷きになる。	●オペレーターはリターンリールを使用し、エンジン停止を徹底する。また運転席から離れる場合は、リールのコントロールを確認する。 ●機械の下に立ち入る場合は、落下防止措置を確実に行う。 ●振れ止めの「落下防止ロック」の確認、「ワイヤーによる落下防止」措置を行う。
		攪拌翼交換	飛来・落下	●攪拌翼の一段目に登り、ピンを抜く際、振れ止め天板裏から残土が落下してあたり、攪拌翼から転落する。	●振れ止め天板の下に入る時は、付着しているセメントがないか確認する。 ●天板に残土付着がある場合は、天板を叩いて落とす。 ●攪拌翼に登らず、作業台を使用する。
		ブラケット洗浄	はさまれ・巻き込まれ	●アジテーター内部を洗浄中、排水用出窓の扉から足を滑らせ、攪拌翼と出窓の間に足を挟む。	●アジテーター清掃は、必ず電源を切ってから行う。 ●アジテーター清掃は、必ずインターロックをOFFにし、鍵を抜いてから行う。 ●作業用足場を使用して清掃を行う。
		セメントサイロ設置	送電線短絡	●送電線下で、クレーンで荷を吊って移動しようと旋回した時、ブームが送電線に接近して、短絡する。	●作業前に、電力会社の立会いを行い、送電線高さおよび離隔高さを確認する。 ●送電線下での作業は、監視人を置き、作業を監視させる。 ●クレーンに揚程指示ロープ等を設置して、安全措置をする。 ●送電線下に、危険標識を設置する。
	製作 作業 工事	FD係留	FD乗降時	墜落・転落	●FDから下船する際、取付けた梯子に乗り移ったとき、梯子が滑り落ち、岸壁についた手を骨折する。 ●乗降する際は、梯子を使用せず可搬式作業台を使用する。可搬式作業台の設置・固定は陸上作業員を配置して行う。 ●補助タラップを外したときの乗降ルールについて実地訓練を行う。
	掘削 工事	中詰工	中詰土天端仕上げ	激突され	●敷き鉄板の片側を吊り上げる際、敷き鉄板が横滑りして、作業員に激突する。 ●敷き鉄板移動時は、作業半径内から作業員を待避させる。 ●作業員の待避確認は、オペレーターと相対作業員の間で合図[グー・パー等]を定めで行う。
	コンクリート ブロック 工事	消波ブロック製作	移動中	墜落・転落	●消波ブロック打設用単管作業床で作業中、足場板が外れ転落する。 ●点検を実施し、足場板の固定を確認する。 ●点検項目に加え、記録を残す。
		消波ブロック据付・撤去	玉掛け治具交換	はさまれ・巻き込まれ	●消波ブロックの玉掛け治具交換時、鉄棒がすべり治具とデッキに指を挟む。 ●作業時には台木を準備する。 ●鉄棒を使わないフック構造(吊り上げピースを取付)にする。 ●詳細作業手順書を作成し、周知する。
		異形ブロック(製作・転置・運搬)	型枠脱型及び転置	はさまれ・巻き込まれ	●ブロックとリフトの間に手・指を挟まれる。 ●型枠上または足場上から墜落転落する。 ●側型枠を人力で無理に脱型し、側型枠が激突する。 ●ワイヤーを直接持たない玉掛け方法を実施する。 ●型枠上部の緊結金具を外す際は、適切な足場を使用する。 ●側型枠型作業手順に従って作業する。
		海上積込・運搬・据付	起重機船の係留	激突され	●係留作業中、ロープに無理な力が加わり切断又は解けて、乗組員がロープに跳ねられる。 ●着火船の曳船用ガイドに係船ロープが引っ掛からないような形状にする。 ●着火船の船首甲板部に立入禁止区域を明示する。 ●係留ロープ、補助ロープの始業前点検を確実に実施する。 ●バンドル(タイヤ)に係船ロープが絡まることのあるので、係船ロープの動きを監視する。
防波堤 工事	積込・運搬	船外機への積み込み	墜落・転落	●ナイロンスリングが破断して吊り荷が落下し、逃げようとして消波ブロックの間に転落する。 ●吊り作業中の声掛け、人払いの徹底。 ●玉掛けワイヤーの一点点検を作業開始前に実施し、不良物を破棄する。	
	防波堤下部工事	鋼管矢板切断	爆発	●既設鋼管矢板切断時に発生する水素ガスを抜くため、水中溶断機で鋼管矢板に穴開け作業中に水中爆発する。 ●タイヤ防舷材(重量物)の固縛は、チェーンブロックで行う。 ●ワイヤーを取り扱う際は、皮手袋の着用を徹底する。	
	ケーソン製作	足場解体	墜落・転落	●ケーソンから取り外した鋼製足場を分解中、部材につまずき足場から落下する。 ●簡単な作業でも油断せず、危険予知を行う。 ●足元にある部材は踏ん恐れがあるため、先行して片付けを行う。 ●職長及び職員は、作業終了後は必ず作業中のケガ、異常等の確認をする。	
護岸 工事	準備工	海上ボーリング	セップ台船大破	●設置していたセップ台船が時化により傾き、その後波により大破する。 ●セップ台船組立時に各部材の点検・確認を行う。 ●セップ台船退避基準(平均風速、有義波高)を適宜見直す。	
	積込・運搬	船外機への積み込み	転倒	●船外機に資材等を卸し、岸壁に戻ろうとした時に船外機と岸壁の間に足を踏み外して転倒する。 ●係留ロープを取る際、船舶と岸壁の隙間をできるだけ小さくする。 ●軽作業であっても、KY活動を実施するなどしてマンネリ化を防ぎ、注意喚起を行う。	
	コンクリート打設	水中コンクリート打設	飛来・落下	●先端ホースをクレーンで吊って打設中、ホースが破裂して生コンが飛散する。 ●ポンプ車にて生コン打設の際は、保護メガネを着用する。 ●先端ホースは2点吊とし、ホースにつぶれや折れがないことを点検した後打設する。 ●先端ホース(5時の外側に8時のサンニホースで養生し、破裂しても生コンが飛散しないようにする。 ●ポンプ車の日常点検に加え、ホース・配管も点検を行い、不備のある物は交換する。	
		コンクリート打設足場	激突され	●ポンプ車のホースが身体正面にぶつかり、その反動で手すりに背中をぶつける。 ●ホース延長上の正面に立たないよう、作業前打合せでブーム、パイプレタ、作業員の位置を確認する。 ●詰まった際、作業員全員が安全な場所に退避を行うよう指導する。	
	施工管理	施工管理	転落	●安全監視船が風にあおられ、護岸に接触した弾みでバランスを崩し海中転落する。 ●救命胴衣を着用する。 ●電池式の簡易無線機を使用し、日々の受け渡しは行わない。 ●安全教育を実施し、現場ルールや安全意識の高揚を徹底する。	
	船舶係留	引船係留	はさまれ・巻き込まれ	●引き船を起重機船に係留時、船体が動揺して係留ロープとビットに手を挟む。 ●係留ロープを掛ける際、補助ロープの使用を徹底する。	
		潜水土船係留	転覆・油流出	●岸壁に係留していた潜水土船が転覆し、燃料の軽油が流出する。 ●取水装置(キングストン)の始業前点検を点検項目に追加し、結果により必要な措置を講じる。	
潜水作業	捨石本均し	はさまれ・巻き込まれ	●移動させた捨石が手の上に転がり挟まれる。 ●均し作業前に、当日の施工範囲で不安定な石があるか点検し、不安定な石は予め取り除く。 ●大きな捨石を移動する場合は、ワイヤモックを使用して安定した場所へ移動する。		
	大型土嚢撤去	はさまれ・巻き込まれ	●水中で大型土嚢の玉掛け後、退避前にクレーンの吊上げが開始され右手指が吊ワイヤーに挟まれる。 ●作業手順書に配置、合図、退避の確認方法を明記し全作業員へ周知する。		
	潜水工	潜水シート沈設	激突され	●潜水士が水中中部玉パイを撤去する際、顔面にぶつかる。 ●水中部玉パイ撤去作業は、体勢が保持できるフーカー潜水士で行う。 ●撤去時は、玉パイ浮上位置から少し離れて玉パイを真横から見るような体勢をとる。	
工浚事課	グラブ浚渫	位置決め	はさまれ・巻き込まれ	●揚錨船で起しワイヤーをウィンチで巻く際、起しワイヤーを掴んで、シーブとワイヤーに指を挟む。 ●直接ワイヤーを手でつかまずハッカーを使用し、ワイヤーを空気圧送船側に引き寄せ、その後回収する。 ●作業の開始は作業指揮者の合図により行う。	

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
() 海上地盤改良工 () 陸地地盤改良工	準備工	汚濁防止膜設置	激突され	●汚濁防止膜の介錯時、アンカーボルトに引っかかっていた操船ワイヤーが外れ足に当たる。	●操船ワイヤーに近づく際は、引っかかりのないことを確認する。 ●操船ワイヤー付近での作業時、事前の状況確認を行い、監視員を配置する。
	船舶係留	着火船舶の移動	はさまれ・巻き込まれ	●着火船舶で作業台船のアンカーワイヤをくぐり抜けた時、アンカーワイヤと着火船舶に挟まれる。	●アンカーワイヤに「ワイヤ注意」「運航ルート」の標識を設置し、注意喚起する。 ●着火船舶の運航ルートを明示する。 ●アンカーワイヤの下を通過する時は、最低速度で運航する。 ●着火船舶の機関部ハッチが開けたままにならないよう、ハッチをヒンジ式から取り外し式に改造する。
海上地盤改良工 () 固化	攪拌翼洗浄・取替	攪拌翼の肉盛り溶接補強	飛来・落下	●攪拌翼の肉盛り溶接補強中、保護メガネをかけておらず、スパッタが飛来し目を火傷する。	●適正保護具の使用徹底。 ●作業しやすい場所を確保する。
	打設	深層混合処理杭打設	鉄粉の飛散	●CDM船現場入域後、護岸背面の駐車場に置いてある車に鉄粉が飛散する。	●回転部と非回転部の摩擦防止として、配管を設置し水を流す。
	その他	船内歩行	転倒	●作業場へ移動時、船内の通路段差に躓き、階段角に顔を打つ。	●階段昇降時は、足元をしっかり目視して慎重に歩行する。 ●注意看板をより視覚的なものにする。 ●危険箇所はクッション材等で養生する。
海上地盤改良工 () 共通	ガス溶接	アセチレンポンベの運搬	はさまれ・巻き込まれ	●アセチレンポンベを運搬し、ポンベを立掛けようとして、奥にあるポンベとの間に指を挟まれる。	●ポンベを立掛けする時は、指の位置を確認する。 ●一人で無理がある時は、二人で行う。 ●ポンベとポンベの間に間仕切りを設ける。
	その他	分電盤の修理	感電	●発電機のブレーカーを落とさずに分電盤の点検・修理作業し、活線に接触し感電する。	●故障が発生した場合は、電源を落とし作業を中止した後に進行。 ●点検・修理作業時には、電気検知機にて検測する。 ●分電盤には、行き先表示および注意喚起の表示をする。
共通工	運搬車両	ダンブ運搬	はさまれ・巻き込まれ	●落下したアオリを取り付ける際、バランスを崩して荷台とアオリに手をはさまれる。	●業務内容、作業員の技量を把握した人員配置を行う。 ●アオリ下部のロックピンを取付ける。
			墜落・転落	●ダンブ荷台の泥土付着状況を確認しようとして荷台に上った際、足を滑らせ落下する。	●足を掛ける箇所に滑り止めシールを張り付ける。 ●運搬途中での荷台の確認は基本として行わない。 ●昇降時は、靴底の泥、雪等を取り除く。
	ユニック車	橋梁壁高欄損傷	●ユニック車が対向車の脇をすれ違う際、市道の橋梁壁高欄に接触する。	●運行ハザードマップに車幅の狭い区間等を記載し、運行前に周知する。 ●一般車優先で運転する。	
			飛来・落下	●結束バンドで固縛された鋼製型枠の束をユニック車で吊りあげた際、バンドが切断し滑り落ちる。	●資材を吊り下ろす際は、立入禁止処置を実施する。 ●鋼製型枠の束を吊り上げる際は、レバーブロック+ヘルムスリングにて堅固に固縛する。 ●出荷時の荷を工夫する。(1梱包の重量)
	車両系建設機械	バックホウ作業	蜂刺され	●バックホウに乗り込む際、手すり部に止まっていた蜂ごと手すりを掴み、手のひらを蜂に刺される。	●重機乗車時は周囲の安全並びに手元・足場の状況を十分に確認し乗車する。
			激突され	●鋼矢板をバックホウで移動中、誘導員の足に激突する。	●現場状況を確認し、危険箇所への立入禁止を徹底する。 ●用途外使用禁止を再度指導・徹底し、各作業計画等の見直し、確認を徹底する。
			埋設物損傷	●埋設物が想定箇所より浅い位置にあり、掘削中に埋設ケーブルを損傷させる。	●埋設物の位置・高さを安易に判断せず、試掘を行う。 ●埋設物付近の掘削は手掘りで行う。
			架空線切断	●運転席上方を十分確認しないまま運転し、架空線を切断する。また、切断した架空線で感電する。	●架空線下での作業は見張人を付け監視する。 ●架空線付近には注意喚起の表示を設置する。
	クレーン	移動式クレーン作業	●クレーン仕様バックホウで鉄板を吊り上げ仮置きする際、バランスを崩し機械が転倒する。	●吊作業は重機を平坦な箇所に設置して行う。 ●斜路で作業する際は、ラフタークレーン等を使用する。 ●機械の作業能力を確認・明示し、周知する。	
			●クレーン仕様バックホウのパレットを下げた際、吊枠とホッパーが架台から脱落し、吊枠が肩に接触する。	●吊ワイヤの玉外しは確実に行う。 ●クレーン仕様バックホウとの同時吊荷作業は行わずクローラクレーンのみで行う。 ●作業指揮者は笛を使用し、人払いを徹底する。 ●具体的な作業手順書(吊枠・ホッパーの設置方法)を作成、周知する。	
●BHで転石をヤードへ運搬する為法肩付近に近づいた際、法肩が崩れ重機が滑転転倒する。			●重機足場の安全を確保した作業計画とする。 ●法肩を明示し近づかない。		
ハンドブレーカ	コンクリートのはつり	はさまれ・巻き込まれ	●ハンドブレーカのピックの先が鉄筋に噛んで、ハンドブレーカが回転して手を挟まれる。	●ハンドブレーカは、逆手に持たない事を徹底する。 ●指は、ハンドルの外側に出さないを徹底する。 ●ブレーカ作業は、危険な作業である事を周知徹底する。	
丸ノコ	型枠切断	切れこすれ	●電動丸ノコで型枠パネルを切断中、丸ノコが跳ね返り、体に接触して切れる。	●切断作業は、安定した場所に置いて安定した姿勢で行う。 ●利き手以外での使用は、危険を伴うので禁止とする。	
高圧洗浄機	点検作業	飛来・落下	●高圧洗浄機の整備点検中、突然ノズルから水が噴射し目にあたる。	●ノズル先端方向に人がいないことを確認してからレバーを握る。 ●整備・点検中においても保護メガネを着用する。 ●高圧洗浄機使用時の作業手順を再度、周知・徹底する。	
高温環境下での作業	全ての作業	熱中症	●高温環境下での作業中、熱中症にかかる。(資材片付、敷鉄板移動、丸ノコ吹付、トガ構込、蛇かご製作、型枠解体、鉄筋組立、アラト組立、施工機組立解体、コック打設、支保工組立、足場解体、誘導など)	●水分・塩分の適切な摂取と涼しく適度な休憩ができるような準備・設備を整える。 ●入場時に、既往症・異常所見の有無を健康診断結果等により確認し、有の場合は作業・配置等について配慮する。 ●体調に異常を感じたら、速やかに報告するよう指導する。 ●各作業員に熱中症対策を含め、自ら体調管理に努めることを徹底指導する。	
業務上の移動	自動車の運転	交通事故	●路面の凍結でスリップして、路肩から河川敷に転落する。 ●自転車で通勤時、降雪により転倒する。 ●側道から本線に進出時、前方のトラックに追突する。	●徐行するなど、路面状況に応じた安全運転を行う。 ●気象状況、時間帯等を考慮した無理のない運行計画をたてる。 ●積雪時に自転車で通勤・移動しない。 ●前方確認 ●余裕のある運転計画。	
			●当方が大型トラック(トイコ)で現場右折出庫する際、左側から直進してきた一般車と接触する。 ●亦信号で前方車両が停止したのに気付かず、衝突する。 ●信号待ちで停止中ドライブレコーダーに手を伸ばした際、ブレーキペダルが踏み前方車両に追突する。 ●渋滞発生し、前方のスピードが落ちていることに気づきブレーキを踏んだが止まり切れず衝突する。 ●車線変更時に、後方車両と接触する。 ●渋滞中に、後続車から追突される。 ●交差点で多重衝突事故に巻き込まれる。	●指差呼称による左右確認。 ●注意喚起表示。 ●前方確認 ●車間距離の確保。 ●前方確認 ●車間距離の確保。 ●車線変更時、目視での周囲安全確認。 ●周囲の状況確認。 ●周囲の状況確認。	

管理文書

2021年度最重点実施事項として展開しています

目の前の その行動 この設備

指差呼称で互いに安全確認

自分自身の作業行動について指差呼称で安全確認を行うことはもちろん、一緒に働く仲間が不安全行動を行っていないか、使用している機械・設備に不備はないか、目の前にある行動・状態をお互いに指差呼称で安全確認して、危険ゼロ・災害ゼロの建設現場を実現しましょう！



pixta.jp - 72050456



pixta.jp - 72670174

人員配置ヨシ！



pixta.jp - 6929970

安全通路ヨシ！

安全帯使用ヨシ！

手順ヨシ！

立入禁止ヨシ！

退避ヨシ！

吊り荷ヨシ！



pixta.jp - 37924527



pixta.jp - 26041363

アウトリガー張出しヨシ！

◎ 指差呼称当番を決めるなどして、みんなで安全確認

◎ 特に管理監督者は、巡視時にチェックポイントを指差呼称により安全確認

リスクアセスメントの実施に係る 店社管理者の指導強化

安衛法第28条の2「事業者は、建設物、設備、原材料、ガス、蒸気、粉じん等による、又は作業行動その他業務に起因する危険性又は有害性等を調査し、その結果に基づき措置を実施することを努めなければならない。」

リスクアセスメントと危険予知活動 (KY活動) の違い

	リスクアセスメント	危険予知活動 (KY活動)
目的	工法・設備や作業方法から、リスクの低減措置を計画的段階で決定する。	作業当日の危険を再認識し、注意力を喚起し、作業行動を決定する。
実施時期	工事の計画が変更可能な段階で実施する。(施工計画書、作業手順書作成時等)	作業開始直前に実施する。

リスク低減措置の優先順位

① 設計や計画段階における措置

工法、作業方法、使用機械・設備等

② 工学的対策

ガード、安全装置、安全ブロック、インターロック等

③ 管理的対策

マニュアル、作業手順書、立入禁止措置、教育・訓練等

④ 個人用保護具の使用

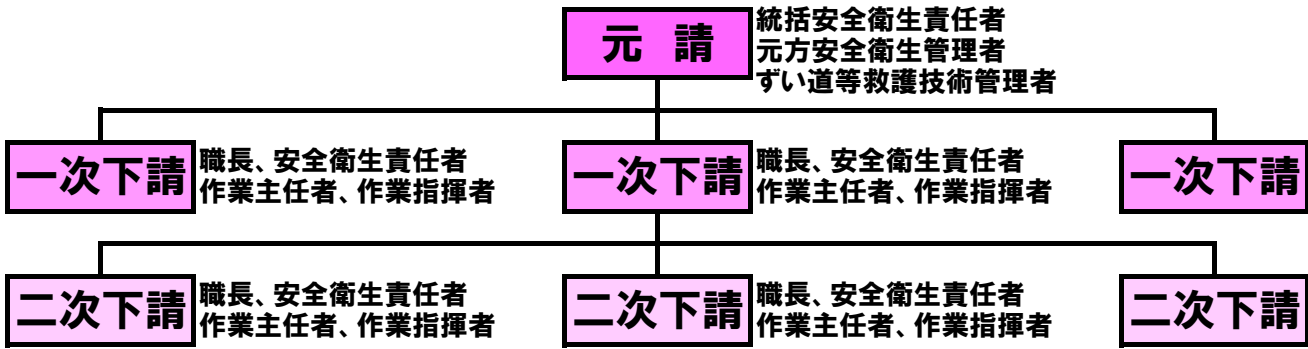
ヘルメット、墜落制止用器具、マスク、メガネ等



リスクアセスメントは現場任せではダメ、

計画段階での店社管理者の指導・支援が重要！

作業内容に即した適切な人員配置と それぞれの役割の明確化



混在作業（作業所）			
	20	30	50
ずい道等、圧気、一定の橋梁	店社安全衛生管理者	統括安全衛生責任者	
S造、SRC造の建物	店社安全衛生管理者		統括安全衛生責任者
その他の仕事	統括安全衛生責任者		
事業者（店社）			
	10	50	100
	安全衛生推進者		
	安全管理者、衛生管理者、産業医		
	総括安全衛生管理者		

元方事業者	
統括安全衛生責任者 <ul style="list-style-type: none"> ① 元方安全衛生管理者等を指揮する ② 協議組織の設置及び運営を行う ③ 作業間の連絡及び調整を行う ④ 作業場所を巡視する ⑤ 関係請負人が行う労働者の安全又は衛生教育に対する指導及び援助を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 仕事の工程に関する計画及び作業場所における機械、設備等の配置に関する計画の作成とともに、関係請負人が作成する作業計画の指導を行う ⑦ クレーン等の合図、警報等を統一する ⑧ その他労働災害防止に必要な事項
元方安全衛生管理者 <ul style="list-style-type: none"> ・統括安全衛生責任者の職務のうち、「技術的事項」を管理する 「技術的事項」とは、上記①～⑦の安全又は衛生に関する具体的事項をいう 	
店社安全衛生管理者 <ul style="list-style-type: none"> ① 作業所の統括安全衛生管理を担当するものに対して指導する ② 作業所を毎月1回以上巡視する ③ 作業所において行われる工事の進捗状況を把握する ④ 作業所の協議組織に随時参加する ⑤ 仕事の工程に関する計画及び作業場所における機械、設備等の配置に関する計画を確認する 	

関係請負人

職長

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 作業方法の決定及び労働者の配置 ② 作業の監督と指導 ③ 作業設備及び作業場所の点検、保守管理 ④ 異常時、災害発生時における措置 | <ul style="list-style-type: none"> ⑤ 作業者の安全意識向上 ⑥ 作業方法の改善 ⑦ 危険性又は有害性等の調査の実施と結果に基づく措置 ⑧ その他現場監督者として行うべき労働災害防止活動に関すること |
|--|--|

安全衛生責任者

- ① 統括安全衛生責任者との連絡
- ② 統括安全衛生責任者から連絡を受けた事項の関係者への連絡
- ③ 統括安全衛生責任者から連絡事項のうち、当該請負人に係るものの実施についての管理
- ④ 関係請負人がその労働者の作業の実施に関し作成する計画と、特定元方事業者が作成する計画との整合性を図るための統括安全衛生責任者との調整
- ⑤ 混在作業によって生じる労働災害に係る危険の有無の確認
- ⑥ 仕事の一部を再下請させる場合、後次請負人の安全衛生責任者との連絡調整

作業主任者

- ・ 型枠支保工の組立等
- ・ 足場の組立等
- ・ コンクリート造の工作物の解体等
- ・ 地山の掘削
- ・ 土留め支保工
- ・ 酸素欠乏危険
- ・ 特定化学物質
- ・ ガス溶接
- ・ ずい道等の掘削等
- ・ 高圧室内 など

作業指揮者

- ・ クレーンの組立て等
- ・ 移動式クレーンの組立て等
- ・ 高所作業車(を用いる作業)
- ・ 車両系建設機械
(修理又はアタッチメントの装着及び取外し)
- ・ 杭打機、杭抜機、ボーリングマシンの組立等
など

合図者

玉掛者

誘導員

監視人

連絡員

など

《足場の組立等作業主任者の職務》

- ・ 材料、器具・工具・保護具類の点検及び不良品の取除き
- ・ 作業方法及び労働者の配置の決定、作業の進行状況の監視
- ・ 保護具類の使用状況の監視

《車両系建設機械の修理作業指揮者の職務》

- ・ 作業手順を決定し、作業を指揮する
- ・ 車両系建設機械のブーム、アーム等の不意の降下防止のための安全支柱、安全ブロック等の使用状況を監視する

《地山の掘削作業主任者の職務》

- ・ 作業方法の決定と作業の直接指揮
- ・ 器具・工具の点検と不良品の取除き
- ・ 保護具類の使用状況の監視

《杭打機等の組立等の作業指揮者の職務》

- ・ 作業の方法、作業の手順等を定め、これを労働者に周知し、作業を直接指揮する

個々の作業に必要な人員を配置し、役割を明確にして、
関係者が一体となって作業を行いましょう！

体験型安全教育等による危険感受性の向上

◎ VRを視聴して、危険回避の声かけ



自分の現場だけでは体験できないいろんな場面での災害体験ができた

恥ずかしくて声かけできなかったが、声かけが災害防止につながるということがわかった

◎ 墜落制止用器具ぶら下がり体験



胴ベルト式で実際ぶら下がったら非常に苦しかった

フルハーネス型は身体にあわせて腿ベルトをしっかり調整しないと性能が発揮できない

◎ 重機死角確認



実際操縦席から確認すると思ったより死角が広いと思った

重機のそばに行くときは、必ずオペとのコミュニケーションをとる必要を感じた

◎ 足場点検実習



実際の足場での点検実習だったので不備がよくわかり、自分の現場でも生かせると思った

実体験することで
危険感受性・安全意識
を高めましょう！

感染防止の取組・「三つの密」や「感染リスクが高まる『5つの場面』」を避ける行動の徹底

◎ 感染防止の取組

1. **テレワーク・時差出勤**を推進する
2. 体調がすぐれない人が**気兼ねなく休めるルール**を定め、実行できる**雰囲気**を作る。
3. 職員間の距離確保、定期的な換気、仕切り、マスク徹底など、**密にならない工夫**を行う。
4. 休憩所、喫煙所、更衣室などの“場の切り替わり”や飲食の場など「**感染リスクが高まる『5つの場面』**」での**対策・呼びかけ**を行う。
5. 手洗いや手指消毒、咳エチケット、複数人が触る箇所の消毒など、**感染防止のための基本的な対策**を行う。

◎ 「三つの密」を避ける

換気の悪い

密閉空間

多数が集まる

密集場所

間近で会話
や発声をする

密接場面



◎ 「5つの場面」を避ける

1. 飲食を伴う**懇親会**等
2. **大人数**や**長時間**におよぶ**飲食**
3. **マスクなし**での会話
4. 狭い空間での**共同生活**
5. 居場所の**切り替わり**

